

平成25年度 北信越地区審判講習会に参加して

北支部審判委員 近田 俊幸

○平成25年度 北信越地区審判講習会 要項

1. 主催 北信越地区高等学校野球連盟
2. 主管 福井県高等学校野球連盟
3. 日時 平成25年5月18日(土) 12:30～21:30
5月19日(日) 8:20～13:10
4. 場所 福井県営球場 福井市福町3-20 Tel0776-36-1542
5. 講師 (公財)日本高等学校野球連盟派遣講師4名
赤井淳二先生 堅田外司昭先生 大槻康彦先生 土井淳弘先生
6. 補助講師 平成25年度の全国審判講習会に参加した各県審判員1名 計5名
7. 受講者 長野・新潟・富山・石川 各4名 福井16名 計32名
8. 宿舎 ホテルフジタ福井
福井市大手3-12-20 Tel0766-27-8811
9. 経費 (旅費)各県連盟負担
(宿泊費)〃
10. 携行品 公認野球規則、高校野球審判の手引き、筆記用具
審判服一式(ブルーYシャツ・グレーズボン・靴下(紺・黒))
審判用具(インサイドプロテクター・マスク)、運動靴
11. モデルチーム 第1日目 福井工業大学附属福井高等学校・福井商業高等学校
第2日目 北陸高等学校・敦賀気比高等学校
12. 日程 第1日 [5月18日](土)
12:30～12:50 受付、班別編成
12:50～13:00 開講式
13:00～16:45 実技練習
17:05～19:10 移動、座学(ルール改正、講義等)
19:10～21:00 入浴、夕食(意見交換会)
第2日 [5月19日](日)
7:00～8:20 朝食・移動
8:20～8:30 集合、点呼
8:30～13:00 実技練習
13:00～13:10 閉講式(講評・挨拶)

北信越地区高等学校野球連盟主催の審判講習会が、平成25年5月18日～19日の二日間、福井県営球場で開催されました。天気が下り坂で雨が心配されましたが、講習会終了と同時に本格的に雨が降り出すという、参加者全員の熱意により外で全日程を終了することが出来ました。

はじめに、審判技術の取得や他県の審判員との出会いという貴重な時間をいただきましたことについて、新潟県高野連並びに審判部長、副部長をはじめ先輩の方々、同僚の皆様に深く感謝申し上げます。

この経験を生かし、審判技術の向上はもちろん模範たる社会人を目指して、日々精進してまいりますので、今後もご指導をお願いいたします。

素晴らしい講師からご教授いただいたことすべてをお伝えできるか不安ですが、特に重要と思われる点や私を感じたことをご報告させていただきます。

○平成25年度北信越地区審判技術講習会 講師並びに班編成

講師 日本高等学校野球連盟審判規則委員会委員長 赤井 淳 二 氏
日本高等学校野球連盟審判規則委員会委員 堅 田 外司昭 氏
日本高等学校野球連盟審判規則委員会委員 大 槻 康 彦 氏
日本高等学校野球連盟審判規則委員会委員 土 井 淳 弘 氏
富山県高等学校野球連盟審判委員 山 崎 正 男 氏

	1班		2班		3班		4班	
補助講師	東城真司	長野	星野公人	新潟	野村慎吾	富山	山崎 務	石川
補助講師	福永哲之	福井						
1	飛沢 聡	長野	桜井啓太	新潟	浄土弘樹	富山	西野博充	石川
2	田上 徹	石川	高野 智	長野	近田俊幸	新潟	羽根宏紀	富山
3	神代雅浩	富山	本蔵剛典	石川	岡本大輔	長野	若井高志	新潟
4	小川誠市	新潟	小林清悦	富山	塩谷 悟	石川	古屋 茂	長野
5	下中敏弘	福井	吉田義孝	福井	山口久範	福井	山路俊彦	福井
6	和田秀樹	福井	坂井浩伸	福井	長谷川到	福井	石津勇二	福井
7	中島誠司	福井	加茂昌幸	福井	畑中 寛	福井	田中 進	福井
8	宇賀久隆	福井	八十嶋秀之	福井	野田重成	福井	小島孝彦	福井

○講習会内容

重 点 目 標

- ・周囲に周知させるディクレアー
- ・各塁における基本プレイの再確認
- ・プレイに対する読み・行動・コミュニケーション
- ・ストライクゾーンの確認
- ・正しい角度と正しい距離

日程表(第1日目)

◆開講式

①西川 譲 福井県高野連会長挨拶

②山口 隆治 福井県野球連盟審判部長挨拶

③講師紹介④講師挨拶⑤モデルチーム紹介⑥日程等連絡

◆講習会

①ランニング、準備体操

②ジェスチャーの基本練習・球審(周囲に周知させるディクレアー)

高校野球の基本1. 主役は選手であることを忘れてはならない2. だから正しい判定をする。3. そのためには基本が重要である。遠くの人たちにもわかるジェスチャーが求め

られる。

③球審の基本動作とストライクゾーンの運用と説明

④基本事項説明（球審の姿勢）

i 位置と姿勢

ゲットセット（赤井講師）は、ハンズオンニーのまま、最後腕を添えるそんな感じが姿勢としては一番良い（安定感がある）※1試合200球以上の球を見極めるのだから、しんどい恰好は大変（赤井講師曰くお尻を後ろに立った人に向ける感じ）

ii ストライクゾーン

iii ジェスチャーとコール（タイミング）

iv マスクの取外し

v ハーフスイングの判定

vi 本塁周辺でのラフプレイ時の処置

⑤投球判定基本練習 4班編成

ストライクの幅はベース幅（ボール6個）と両サイド各1個の8個である。高さも打者の大きさにより早めにストライクゾーンを見定めることが大事（バッターボックスに向かってくるときに高さを確認する）。軸足を真つすぐ入れることが大事である。（膝を投手に向ける意識）それから、リラックスするときは自由な足から下がる。

①目をつぶらない

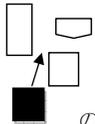
②トラッキング

トラッキングが大事（土井講師曰くボールをホームプレートまで戻して、コールする感じ）。トラッキングをすれば、完全な・或いは際どいストライクもボールもコールのタイミングは一緒になるはず。

③コール

ゲットセットは早めに行う。（投球動作に入ってチョロチョロ動かない）早くキャッチャーの特性をつかむ（前へ出るのか、後ろに下がるのか）。

内角高めウェストボールは、



のぞき込む

ストライクのコールをして手を下げながら、後ろに下がる（リラックスする）のは締りがない。

⑥フォースプレイの判定練習（走者一塁と無走者）

二塁塁審は内側と外側（外側は満塁、一・三塁のプレイを想定、内側は二塁側及び遊撃手側に位置）

フォースアウト

i 走者の触塁 ii 一塁手の触塁 iii 捕球の3つを確認する。

投手カバー時はライン上で見る方が良い。

今年より、打球が逸れてもその場にいる（中へは入らない）。ボールの行方は球審がカバーする。一塁は打者走者の次の塁を向うか確認する。

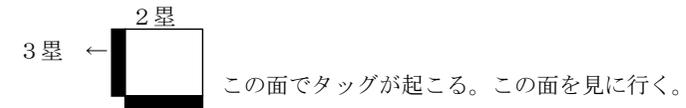
ライナーはグラブの腹を見に行く意識。

一死一塁、一塁ゴロ、そのままベース触塁後に二塁へ送球（タッグプレイ）、一塁審判は大きく手を上げ、ヒズ・アウトをコールし二塁塁審へ伝達する。同様に、一死満塁で三塁ゴロ、三塁手が三塁に触塁後、本塁へ送球。この時も三塁塁審は、大きいジェスチャーで球審に知らせる。フォースか否かは重要な問題、他の審判に知らせるとともに観客にもわかりやすいようにすることが大事である。（他の塁でも同様）

5-4-3のダブルプレイを狙った場合、一塁塁審はピボットマン（この場合4）の手から離れた瞬間まで目を切らない。（投げないかもしれない）

⑦タッグプレイの説明

盗塁の判定練習（二塁盗塁と三塁盗塁、二塁塁審は二塁側と遊撃手側を研修）



盗塁の1歩目は、打者が打たない瞬間（4歩、間に合わなければ2歩で良い）自分に当たらないと判断できる場合に、早くベースに正対して待ち構える。

ショート側に立つ時は1歩で良い。タッグが一塁側にそれた時のアジャストが大事。…休憩

⑧打球の判定練習

i ベースを過ぎる打球

打球判定は、打つ瞬間を意識する。またラインキープ、ベースでフェア・ファールが確定するので早くジャッジする。自分の脇を過ぎてからのジャッジは遅い。

ii レフト・ライト定位置へのライナー

iii センター付近の打球に対する連携プレイ

プレイを予測し待ち構えることが大事。ライナーキャッチは、当該審判だけでなく他の審判もキャッチを見る余裕がほしい

2塁審判（中に入ったとき）外野への飛球は先の塁の審判の動きに注意する。また、プレイが起きてから考えるのではなく、インターバルの間にあらゆるプレイを想定しておくことが大事。

⑨フォーメーションの基本練習 10分×4ポジション（走者一塁と無走者）

球審が一塁線、三塁線への打球について、前に行くべき時と行くことができないケースがあるので想定して体が反応するように。前に出られない時のフェアは、右手、左手ともに真横に出すと、いずれもファールグラウンドを指すことになるので、マウンドを指すようにする。（前へ出たときも同様とする。観客が分かりやすいことが求められる。）

走者一塁で、打球により三塁へ上がらなければならない時は、一塁塁審のホームカバーあるか確認する。

自分の真上の打球は見ながら追う（目を切るとポール際など見失う可能性がある）ポール際も落下してからホームラン・ファールではなくポールを過ぎた時点で決まっている。（つまりボールが着地する前にジャッジがされているということ）ホームランは大きなジェスチャーで、スタンド側に向けて手（指）を回した後、振り返り（本部方向）

さらに手（指）を回す。

⑩タールダウン 初日の協力校への挨拶

◆座学

赤井委員長より

次年度のルール改正で3塁への偽投は禁止される可能性が高い（今年度よりMLBで採用）。

NPBでは国際基準にならいベンチ前での投手の投球練習はダメになる。今季は2軍戦で導入、問題がなければ来季から1軍でも適用される。野球規則ではプレイ中の選手以外はベンチ内にいることが定められている。自軍の攻撃中、ベンチ外にいていいのはプレイをしている選手、つまり塁上と打席にいる選手とコーチスボックスとネクストバッターズサークルにいる者だけ。

今年度よりアマチュア内規によりオブストラクションを厳格にした。捕手の左ひざを折ってのキャッチ・タッグは厳格に対処する。（選手生命を脅かすことは許さない）

春の大会では反則投球が多かった。初回の投球練習時に見ておき、プレイ後にルール適用をする。

◆夕食意見交換会

日程表（第2日目）

◆講習会

①ジェスチャーの基本練習・塁審

②投球判定基本練習（周囲に周知させるディクレアー）

塁審のゲットセットはリラックス。次の所作の障害にならないような構え方（足を大きく開きすぎると一歩目が出ない）をする。また、走る際にはしっかり手を振って、かっこ良く走る。

③ランダウンプレイの判定練習

ランダウンプレイは三分の一に両者が立ちチョロチョロ動かない。最後のタッグの瞬間はアジャストする。ラインアウトは、まず走者にラインアウトとコールし、ラインアウトの場所をポイントする。

同一塁に二人の走者の場合、セーフを先に「ユー・セーフ」「ユー・アウト」。

ノー・タッグのコールは入れて良いがベースに近い時はボイスのみでもOK。これは、その後のアウト・セーフのコールに備えるためである。高校野球では基本は左手指さし「オン・ザ・タッグ」はしない。

④本塁周辺のプレイについて（本塁周辺でのラフプレイ時の処置）

第三ストライク、タイム・プレイ、タッグプレイの位置取り テリトリー確認10分交代

ホーム周辺のプレイ（もっとも得点に絡む場所）常にタイム・プレイを意識する。

アピール権があろうが無かろうが、スコアの時は大きくホームプレートに右手で指差し「ザッツ・ラン・スコア、ザッツ・ラン・スコア」、その後本部に向かって「スコア・ザッツ・ラン（或いは1点）とコールする。」、アピールがありアウトになった場合は、再び本部に向かい「腕を交差し（×字）」でノー・ラン・スコア（ノー・スコア）をコールす

る。

講習会で行った例（タイム・プレイは二死の場合だけでありませんと大槻講師）

A 二死一塁、右中間破る。一塁走者本塁へ、外野中継で打者走者を三塁でタッグと本塁への到達。

B 二死二塁、センター前ヒットで二塁走者の本塁突入と打者走者の二塁でのタッグ或いはランダウンでタッグ。

C 二死二塁、ライト前ヒット、二塁走者の本塁到達と打者走者が一塁手の右翼手からの送球をカットでタッグ。

D 一死一三塁、一塁ゴロ一塁手ベース触塁後、二塁への送球タッグ。

E 一死一三塁、一塁走者とのヒットエンドラン、打者が遊撃へハーフライナー、遊撃手捕球後、一塁へ山なり送球。三塁走者、打った瞬間にホーム突入。

F 一死二三塁、中堅手へ飛球、リタッチ後スタート（三塁リタッチ早い）、中堅手三塁へ送球、タッグアウトなど

…休憩

⑤フォーメーションの練習（走者一、三塁と走者二、三塁）

タイム・プレイの実践含む 10分×4班

打者と捕手の出会いがしら、本年から高野連でもセーフのジェスチャーをする。（但し、ノー・ボイス。ナッシングとは言わない。）

⑥フォーメーションの練習（走者一、二塁と走者満塁）

インフィールドフライと含む 10分×4班

フォーメーションが崩れた時のカバー、プレイに対して傍観者にならないようにすること。

⑦投手の投球と送球に関する説明

⑧フォーメーションの総合練習（試合形式にて）

◆閉講式

①モデルチーム挨拶

②講師講評 講師代表 赤井淳二規則委員会委員長

③挨拶 福井県高等学校野球連盟 田邊浩之理事長

④閉会の言葉 福井県野球連盟審判部 山口隆治審判部長